今，憲法問題を語る―憲法問題対策センター活動報告―

第59回 日弁連人権大会プレシンポ「おかしくない？ 投票できても声は出せない～どうなる高校生の政治参加～」報告

子どもの人権と少年法に関する特別委員会事務局次長　澤田　稔（53期）
憲法問題対策センター副委員長　西田 美樹（54期）

本年6月19日，改正公職選挙法が施行され，有権者が18歳以上にまで拡大されました。東京弁護士会では，本年6月24日，高校生の政治活動についてどのようにあるべきか，会長声明を発表しました。

高校生の初の選挙権行使を前にし，そして本年の人権擁護大会シンポジウムの第二分科会が主権者教育であることを受けて，本年6月1日午後6時30分からクレオにて，当会主催による人権擁護大会プレシンポ企画「おかしくない？ 投票できても声は出せない～どうなる高校生の政治参加～」が開催されました。当日は150名が参加し，翌日のNHKニュースでも放映されるなど大きな反響を呼びました。ちなみに，タイトルの「おかしくない？」は，もちろん，尻上がりのイントネーションです。

公選法改正により18歳以上の者に選挙権が付与されたにも拘わらず，文部科学省の通知やQ&Aでは，高校生の「政治的活動」等が学校による「禁止・制限・指導」の対象とされ，学校への「届出制」も許容されるかのようにされていることについて，コンパクトな問題提起がなされるところからシンポは始まりました。その中では，役者弁護士扮する高校生男女が，社会問題を取り上げた劇を観に行くことさえ学校に届け出る必要があるのではないかと悩む場面が演じられ，「届出制」下の高校生活の窮屈さが暗示されました（ちなみに，恒例の子どもたちと弁護士が作るお芝居「もがれた翼」は，今年，8月20日16時文京シビックホールです）。

続いて，現役の高校生・大学生が登壇し，自分の言葉で政治参加への思いを語り，聴衆を釘付けにしました。今回のシンポの目玉企画だったと言えるでしょう。大人たちが「政治的中立性」に悩んでいることなど意に介さず，「政党の政策についてもっと具体的な知識を得たい」「政治は自分の将来と密接に関わっていると感じる」「学校の先生に教えてもらうのが一番」「いろんな考えを持った先生の意見をそれぞれから聞きたい」と訴えたのです。

荒牧重人教授（山梨学院大学），菅間正道教諭（自由の森学園社会科），広田照幸教授（日本大学）という豪華陣のリレートークも子どもたちの声のパワーにかき消されがちでしたが，それでも，「政治的中立」とは「無難なものにまとめること」「関わらないこと」では決してなく，「様々な意見に触れるということ」「それを権力が介入してはいけないということ」「これからの時代は市民が本気で社会作りに参加することが求められ，そのような市民を育てることこそが政治教育だということ」が熱く語られました。

私（澤田）が最も印象に残ったのは，シンポの最後に高校生が述べた感想で，「大学の先生の話は難しいと思った。やっぱり，自分たちが発信しなきゃと思った」というものです。その率直な物言いに心の底から笑い，共感し，未来に希望を持ちました。芝居あり，勉強あり，笑いありのお得なシンポでした。